

第8回野々市市「図書館を使った調べる学習コンクール」の開催について 市教委による補足説明

新型コロナウイルスに負けず 小中学生が「調べる学習」に挑戦

4月10日野々市市教委は、学びの杜ののいちカレード（野々市市立図書館）の主催で、野々市市教委と野々市市小中学校教育研究会図書館部会と連携協力のもと、第8回野々市市「図書館を使った調べる学習コンクール」を開くことを発表した。例年この「調べる学習コンクール」は夏休みを中心に行われるが、今年新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、年度初めから市内の小中学生が家庭学習の一つとして取り組む。

各学校では、市内一斉の臨時休業に入る前の4月10日、「調べる学習コンクール」のPRや学習方法についての説明が行われた。希望する児童生徒と保護者対象に例年夏休み前に行われてきたチャレンジセミナーに代えて、登校日に学校司書や司書教諭による登校日での講義やウェブ上での情報提供なども検討されるという。

小学生や中学生は、各自が興味をもつテーマを決め、図書やインターネットなどを用いて調べ、実生活や身のまわりの問題として更に追求し、作品にまとめる。応募は夏休み後に各学校を通して市教委が受け付け、優秀作品は11月頃に表彰される。全国コンクールが例年どおり行われれば、それら優秀作品が出品される予定となっている。

大久保邦彦教育長は、次のとおりコメントしている。「休校期間中の小中学生による市立図書館の利用は多少は制限されるため、子供たちが図書やインターネットを利用するためには、家庭の理解と協力が必要となる。毎年続けて積極的に応援する保護者もかなり多く、積極的に取り組まれるようになっており、昨年は市全体で536点、一昨年は728点もの応募があった。不本意ながら子供たちが家庭で過ごす時間が再び多くなってしまいが、今回の臨時休校期間は「調べる学習コンクール」を通じた学力の維持向上に適しているという見方もできる。例年よりも取り組む期間が延びるため、力作が多くなることを大いに期待している。」